

# 家族内の直接的コミュニケーションと 間接的コミュニケーションの関連性

—家族満足度との関連性に着目して—

板 倉 憲 政

本研究では、家族内のコミュニケーションを直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーション（第三者の事柄に関する情報伝達・媒介者を通じた情報伝達）に分類し、直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーションの関連性を検討した。加えて、2つのコミュニケーションと家族満足度の関連性を検討した。大学生・大学院生199名を対象に質問紙調査を実施した。本研究の結果、母子間での父の事柄に関する情報伝達と父子間での直接的コミュニケーションとの間に有意な正の関連が示された。さらに、父子間での直接的コミュニケーションの頻度が少ない場合において、母子間での父の事柄に関する情報伝達の頻度の低群と比較して、母子間での父の事柄に関する情報伝達の頻度の高群の方が家族満足度が高くなることが明らかにされた。このことから、父子間での直接的なコミュニケーションだけでなく、母子間での父の事柄に関する情報伝達においても、父子関係を調節していくことが可能であることが示唆された。

**キーワード：直接的コミュニケーション、間接的コミュニケーション、家族満足度**

## I. 問題と目的

青年期では、家族との適切な距離を模索する時期であり、また、家族との距離のとり方に大きな変化が起きる時期である。それは時には心理臨床場面においても重要なテーマとなってくる（小岩, 2008）。家族システムにおいて両親の葛藤に最も巻き込まれるのは青年期の子どもであることを示唆する研究もある（Grych et al., 2004）。山本・伊藤（2012）は、一方の親が子どもに対して配偶者の愚痴や悪口を言うことで、本来は夫婦間で解決すべき情緒的問題が、サブシステムである子どもにも及ぶことを指摘している。特に、子どもが青年期の時期においては、父親より母親との心理的距離が近いため、母親を介した父親の間接的影響も大きいことが指摘されている（尾形, 2011）。実際、戸田ら（2002）は父子の結びつきを強めるための母親の調節機能を「母親の取り持ち機能」と名づけ研究をおこなった結果、母親の取り持ち機能は子どもの父親への親和性を高めることを見出している。しかしながら、従来の多くの家族内のコミュニケーション研究では、親子関係や親子間のコミュニケーション、夫婦関係や夫婦間のコミュニケーションを捉えるという研究に留まっていた。家族システムの特徴は、各家族

成員が相互に影響し合う複雑なシステムであるとみなされている。そのことから、従来の研究では、子どもと一方の親(例:母親)との間での、他方の親(例:父親)についての情報伝達がされることでも、子どもと他方の親との関係性の認識に影響を与えうるという点、つまり家族成員を媒介とした情報伝達による間接的な影響という視点が欠如していたと考えられる。実際、心理臨床場面では、「母親を媒介として間接的に父親の気持ちを子どもに伝える」ことを通して父子関係の改善を図る間接伝達法と呼ばれる介入を活用していった事例が報告されている(例えば、齋藤ら, 2005; 若島, 2001)。このような一方の親からの間接伝達法などを含む間接的な情報伝達は、子どもと他方の親との直接的なコミュニケーションに影響を与えていることが示唆できる。また、家族全体の状態を見て間接的に家族内のバランスをとる関わりは、母親によってだけでなく、時に父親によっても“妻子の調節役”という形で現れる。これは、妻子の意見が対立するなど、妻子の間に不穏な空気が流れた時、父親が妻もしくは子に働きかけて、両者の関係の調整をおこなうのである(大島, 2011)。このことから、家族内のコミュニケーションを直接的な関係内での情報伝達の手段として捉えるだけでなく、間接的な関係内での情報伝達の手段にも着目することによって、家族システムの複雑な相互影響過程の理解に役立つと言える。

以上のことから、本研究では、家族内のコミュニケーションのあり方を“直接的コミュニケーション”と“間接的コミュニケーション”の二つに分類する。具体的には、「お互いの事柄に関する直接的な情報を伝達すること」を直接的コミュニケーションと定義する。また、間接的コミュニケーションにおいては、1) 一方の親と子どもの間において他方の親の事柄に関する情報伝達をおこなうこと、2) 一方の親が子どもや他方の親を媒介者として情報を伝達すること、と定義する。前者は、「母親と子どもの間で父親の事柄について話す」などが当てはまり、後者は、「父親からの伝言を母親から子どもに伝える」などが当てはまる。

本研究では、家族内の直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーションとの関連性に焦点を当てる。その上で、戸田ら(2002)の研究に基づけば、一方の親と子どもの間での間接的コミュニケーションと他方の親と子どもの間での直接的コミュニケーションとの間に正の関連があることが推察される。このことから本研究では以下の仮説を設定し、子どもの視点から検証する。

仮説1: 一方の親と子どもの間での間接的コミュニケーションと他方の親と子どもの間での直接的コミュニケーションの間には正の関連が示されるであろう。

また、基礎研究の知見として、Takai & Wiemann (2002)は、親密性のほか相互作用相手の地位格差や面子脅威の度合いが直接的な対人コミュニケーションの葛藤方略・間接的な対人コミュニケーションの葛藤方略の選考に影響を与えていることが明らかにした。さらに、高井(2003)は、関係性の違いによって、直接的な対人コミュニケーションの葛藤方略と間接的な対人コミュニケーションの葛藤方略の選択について検討した結果、気おけない関係では直接的な率直方略が選考されるが、関係性が悪くなるにつれて選考されなくなることを明らかにしている。とりわけ、ある程度の関係性(仲間やなじみの他人)がある場合や無縁の関係の場合は直接的な方略よりも間接的な方略を選考されることを明らかにしている。これらの知見から、家族内における間接的コミュニケーションは、一方の親との間で直接的なコミュニケーションが困難な関係において、他方の親が、一方の親と子どもの間での不和を改善すべく用いることが有効であることが推察できる。家族内での会話時間と家族満足度に関連性

が示されている(五十嵐, 1992)ことから, 一方の親と子どもの間で直接的なコミュニケーションが少ない状況において, 他方の親と子どもの間での間接的コミュニケーションを多く用いることで家族満足度を高める役割を担うことが示唆できる。以上の点から本研究では以下の仮説の検討をおこなう。  
 仮説2: 一方の親と子どもの間での直接的コミュニケーション量の低群において, 他方の親と子どもの間での間接的コミュニケーション量の低群よりも, 高群の方が家族満足度の得点が高くなるであろう。

## Ⅱ. 方法

### 調査対象および調査時期

東北地方・関東地方の大学生・大学院生223名の内, 未回答や欠損のあるデータを除外した男性88名, 女性111名の計199名(平均20.62歳, SD=3.09)を分析に使用した。なお, 実施時期は2008年8月～2008年11月に実施した。

### 質問紙の構成

**直接的コミュニケーション尺度** 多川・吉田(2006)の「日常的会話尺度」や平石(2000)による家族相互作用課題を用いた家族のコミュニケーションの逐語, 「家族内の会話」に関する書籍, および大学生・大学院生10名から得られた自由記述を中心に, 「父母間での日常的な会話」に関する記述を収集した。これらをもとに著者らが作成した質問項目に対して, 心理学専攻の3人の大学院生で, 内容や表現を検討し, 削除, 修正点などの協議を通じて, 「日常での出来事について話す」などの項目を含む各12項目からなる「直接的コミュニケーション尺度」を作成し, コミュニケーションの頻度(全くない=1～非常にある=7, までの7件法)を測定する。

**間接的コミュニケーション尺度** 戸田ら(2002)の「母親の取り持ち機能の尺度」や短期/家族療法において用いられる「間接伝達法(齋藤ら, 2005; 若島, 2001)」, および大学生・大学院生12名から得られた自由記述を中心に, 「間接的な情報伝達」に関する記述を収集した。これらをもとに心理学専攻の3人の大学院生で, 内容や表現を検討し, 削除, 修正点などの協議を通して, 最終的に「父親(母親)との間で起こった出来事について話す」という項目や, 「父親(母親)からの頼み事を母親(父親)から私に伝える」という項目などが含まれる計15項目からなる間接的コミュニケーション尺度を作成した。直接的コミュニケーション尺度と同様に, 間接的コミュニケーションの頻度(全くない=1～非常にある=7, までの7件法)を測定した。

**家族満足度** 黒川(1998)の「家族満足度尺度」(9項目)を用いた。本尺度は, 下位因子の分類はされておらず, 9項目全てで家族の満足度を測定する。そのうち8項目は, 「大変満足している5点」から「全然満足していない1点」の5件法で回答を求め, 残りの1項目については, 「大変似ている5点」から「全然違う1点」の5件法で測定した。

**フェイスシートおよび倫理的配慮** 研究の目的, 加えて現在の家族関係や両親に対しての関わり方について尋ねる調査であることを強調した。さらに, 倫理的な配慮として, 本研究への協力が強制ではないこと, 両親不在の方は回答をおこなわなくてよいこと, 個人情報の扱い方などについての説明を記載し, 年齢, 性別, 家族成員との同居の有無について回答を求めた。

### Ⅲ．結果

#### 各尺度の因子分析の結果と信頼性の検討

**直接的コミュニケーション尺度** 母子間における直接的コミュニケーションの頻度について主因子法による因子分析をおこなった結果, 固有値の減退率と解釈可能性から, 単因子が妥当であると判断された (Table1 参照)。また, 父子間における直接的コミュニケーションの頻度でも単因子が妥当であると判断された。なお, 本尺度における信頼性を示す $\alpha$ 係数は, 母子間における直接的コミュニケーションの頻度では $\alpha = .93$ , 父子間における直接的コミュニケーションの頻度では $\alpha = .95$ , と十分な値を示した。

**間接的コミュニケーション尺度** 母子間, 父子間における間接的コミュニケーションの頻度について主因子法・Promax 回転による因子分析を行った結果, 因子構造は異なるものの共に最終的に三因子が抽出された (Table2; Table3 参照)。第一因子を母子 (父子) との間で, 「父親 (母親) との間で起こった出来事について話す」, 「父親 (母親) の性格について話す」などの項目のまとまりから「母子 (父子) 間での父親 (母親) の事柄に関する情報伝達」と命名した。第二因子を「父親 (母親) からの頼み事を私から母親 (父親) 伝える」, 「父親 (母親) からの伝言を私から母親 (父親) に伝える」, などの項目のまとまりから「子どもを媒介した父親 (母親) から母親 (父親) への情報伝達」と命名した。第三因子を「父親 (母親) からの頼み事を母親 (父親) から私に伝える」, 「父親 (母親) からの伝言を母親 (父親) から私に伝える」, などの項目のまとまりから「母親 (父親) を媒介した父親 (母親) から子どもへの情報伝達」と命名した。本尺度における信頼性を示す $\alpha$ 係数は, 母子間での間接的コミュニケーションの第一因子が $\alpha = .85$ , 第二因子が $\alpha = .90$ , 第三因子が $\alpha = .71$ であった。また, 父子間での間接的コミュニケーションの第一因子が $\alpha = .91$ , 第二因子が $\alpha = .90$ , 第三因子が $\alpha = .85$ でありそれぞれ一定の値を示した。

Table1. 母子間での直接的コミュニケーション尺度の因子分析の結果

項目	I	共通性
母子間での直接的コミュニケーション ( $\alpha = .93$ )		
9. してほしいことや、やりたいことを提案する	.77	.72
6. 友人との間で起きたことについて話す	.77	.64
5. 最近、興味をもっていることについて話す	.76	.64
12. 趣味のことを話す	.75	.63
1. 日常での人間関係について話す	.74	.61
11. 家族内で話題になっていることを話す	.73	.58
7. お互いについて思ったことや、感じたことを話す	.72	.57
4. 意見を告げる	.68	.57
5. 用事をお願いする	.68	.53
8. 頼みごとをする	.68	.53
10. 明日の予定について話す	.63	.53
	固有値	6.61
	累積寄与率	60.05
削除項目		
3. 日常での出来事について話す		

※父子間での直接的コミュニケーションにおいても同様に1因子を抽出されたため、記載を省略する。

Table2 母子間での間接的コミュニケーション尺度のプロマックス回転後の因子パターン行列

	I	II	III
母子間での父の事柄に関する情報伝達( $\alpha=85$ )			
7. 父親との間で起こった出来事について話す	.75	.19	-.16
8. 父親の趣味について話す	.68	-.14	.14
5. 父親の仕事(家事)のことについて話す	.67	.18	-.17
13. 父親が考えていることについて話す	.63	.05	.11
11. 父親の興味を持っていることについて話す	.63	-.15	.26
1. 父親の性格について話す	.62	-.06	-.13
3. 父親との思い出について話す	.46	-.06	.32
子を媒介した父から母への情報伝達( $\alpha=90$ )			
15. 父の伝言を私から母親に伝える	.01	.86	.02
4. 父親の予定について私から母親に伝える	-.01	.81	.00
6. 父親の頼み事を私から母親に伝える	.02	.77	.03
10. 父親が決めたことを私から母親に伝える	-.01	.74	.16
母を媒介した父から子への情報伝達( $\alpha=71$ )			
14. 父親が決めたことを母親から私に伝える	.00	.63	.86
9. 父親からの伝言を母親から私に伝える	-.11	.11	.83
12. 父親の予定について母親から私に伝える	.15	.07	.54
2. 父親からの頼みごとを母親から私に伝える	-.08	.19	.54
	II	III	
I	-.40	.60	
II		.56	

Table3 父子間での間接的コミュニケーション尺度のプロマックス回転後の因子パターン行列

	I	II	III
子を媒介した母から父への情報伝達( $\alpha=91$ )			
6. 母親の頼み事を私から父親に伝える	.95	-.12	-.01
4. 母親の予定について私から父親に伝える	.83	.10	-.06
15. 母親の伝言を私から父親に伝える	.82	.02	.01
10. 母親が決めたことを私から父親に伝える	.74	.13	.02
父子間での母の事柄に関する情報伝達( $\alpha=90$ )			
1. 母親の性格について話す	.07	.87	-.17
7. 母親との間で起こった出来事について話す	.14	.78	-.07
8. 母親の趣味について話す	-.23	.76	.26
3. 母親との思い出について話す	-.01	.72	.00
5. 母親の仕事(家事)のことについて話す	.08	.67	.04
13. 母親が考えていることについて話す	-.01	.65	-.14
父を媒介した母から子への情報伝達( $\alpha=85$ )			
14. 母親が決めたことを父親から私に伝える	.02	.02	.84
12. 母親の予定について父親から私に伝える	.21	.05	.59
9. 母親からの伝言を父親から私に伝える	.26	.05	.58
	II	III	
I	.59	.63	
II		.66	
削除項目			
2. 母親からの頼みごとを父親から私に伝える			
11. 母親の興味を持っていることについて話す			



**家族満足度** 本尺度に含まれる9項目について主因子法による因子分析を行なった結果、単因子が妥当であると判断した。よって黒川(1998)同様に、本尺度の9項目の合計得点をそのまま家族満足度として扱うことにした。本尺度における信頼性を示す $\alpha$ 係数は、 $\alpha = .93$ であり、十分な値を示した。

### 家族内の直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーションの関連性(仮説1の検討)

まず、母子間での間接的コミュニケーションの各因子を説明変数に、父子間での直接的コミュニケーションを基準変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果、モデルの説明率( $R^2$ )は39%であり、<母子間での父の事柄に関する情報伝達( $\beta = .63, p < .001$ )>において標準偏回帰係数が有意であった(Figure1参照)。

次に、父子間での間接的コミュニケーションの各因子を説明変数に、母子間での直接的コミュニケーションを基準変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った。その結果、モデルの説明率( $R^2$ )は7%と極めて低い値であるが、<父子間での母の事柄に関する情報伝達( $\beta = .26, p < .001$ )>において標準偏回帰係数が有意であった(Figure2参照)。

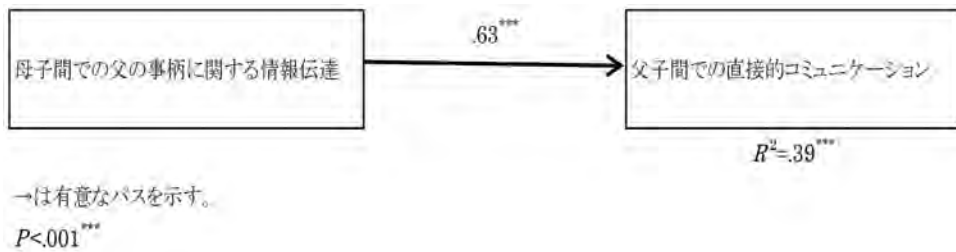


Figure1 母子間での間接的コミュニケーションを説明変数に設定し父子間での直接的コミュニケーションを基準変数に設定した重回帰分析

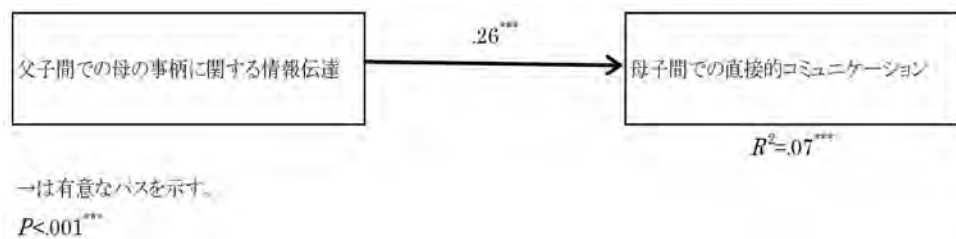


Figure2 父子間での間接的コミュニケーションを説明変数に設定し母子間での直接的コミュニケーションを基準変数に設定した重回帰分析

### 家族内の直接的・間接的コミュニケーションと家族満足度との関連性(仮説2の検討)

父子間・母子間の直接的コミュニケーションの高低と母子間・父子間での間接的コミュニケーションの高低を独立変数にし、家族満足度を従属変数に設定した二要因分散分析をおこなった(Table4参照)。その結果、間接的コミュニケーションの母子間での父親の事柄に関する情報伝達において

交互作用が有意であった ( $F(1,195) = 3.04, p < .05$ )。そのため、単純主効果の検定をおこなった。その結果、母子間での父の事柄に関する情報伝達の低群で、父子間での直接的コミュニケーションが低群と比較して高群において有意に得点が高かった。また、母子間での父の事柄に関する情報伝達の高群で、直接的コミュニケーションが低群と比較して高群において有意に得点が高かった。また、父子間の直接的コミュニケーションの低群で、母子間での父の事柄に関する情報伝達の低群と比較して高群において有意に得点が高かった。

それ以外においては、直接的コミュニケーション ( $F(1, 195) = 17.93 \sim 30.02, p < .001$ )、間接的コミュニケーション ( $F(1,195) = 3.66 \sim 5.04, p < .05$ )においてそれぞれ主効果は見られたものの、交互作用は見られなかった。

Table4 直接的・間接的コミュニケーションを独立変数に設定し家族満足度を従属変数に設定した二要因分散分析

	父子間での直接的コミュニケーション高群		父子間での直接的コミュニケーション低群		F値(主効果)		交互作用
	母子間での父の事柄に関する情報伝達(頻度)高群	母子間での父の事柄に関する情報伝達(頻度)低群	母子間での父の事柄に関する情報伝達(頻度)高群	母子間での父の事柄に関する情報伝達(頻度)低群	直接的Co	間接的Co	
	34.18	34.78	31.03	27.77	20.94***	1.44	3.04*
	7.01	8.41	6.54	7.03			
	父子間での直接的コミュニケーション高群		父子間での直接的コミュニケーション低群				
	子を媒介した父から母への情報伝達(頻度)高群	子を媒介した父から母への情報伝達(頻度)低群	子を媒介した父から母への情報伝達(頻度)高群	子を媒介した父から母への情報伝達(頻度)低群			
	33.59	35.74	29.03	28.69	30.02***	.74	1.98
	7.91	6.27	6.25	7.57			
	父子間での直接的コミュニケーション高群		父子間での直接的コミュニケーション低群				
家族満足度	母を媒介した父から子への情報伝達(頻度)高群	母を媒介した父から子への情報伝達(頻度)低群	母を媒介した父から子への情報伝達(頻度)高群	母を媒介した父から子への情報伝達(頻度)低群			
	34.71	33.90	30.94	27.71	22.20***	8.66*	1.30
	6.79	8.19	6.96	6.84			
	母子間での直接的コミュニケーション高群		母子間での直接的コミュニケーション低群				
	父子間での母の事柄に関する情報伝達(頻度)高群	父子間での母の事柄に関する情報伝達(頻度)低群	父子間での母の事柄に関する情報伝達(頻度)高群	父子間での母の事柄に関する情報伝達(頻度)低群			
	34.78	33.00	30.74	28.12	17.93***	4.37*	.16
	6.56	8.19	6.97	7.77			
	母子間での直接的コミュニケーション高群		母子間での直接的コミュニケーション低群				
	子を媒介した母から父への情報伝達(頻度)高群	子を媒介した母から父への情報伝達(頻度)低群	子を媒介した母から父への情報伝達(頻度)高群	子を媒介した母から父への情報伝達(頻度)低群			
	35.25	32.76	29.47	29.23	19.81***	1.69	1.16
	6.39	8.00	6.79	8.24			
	母子間での直接的コミュニケーション高群		母子間での直接的コミュニケーション低群				
	父を媒介した母から子への情報伝達(頻度)高群	父を媒介した母から子への情報伝達(頻度)低群	父を媒介した母から子への情報伝達(頻度)高群	父を媒介した母から子への情報伝達(頻度)低群			
	34.98	33.29	31.05	28.04	19.29***	5.04*	.40
	6.44	7.89	6.85	7.75			

\* $P < .05$ , \*\*\* $P < .001$

※Coはコミュニケーションを意味する。

#### Ⅳ. 考 察

本研究では、家族内のコミュニケーションのあり方を“直接的コミュニケーション”と“間接的コミュニケーション”の2つに分類し、「一方の親と子どもの間での間接的コミュニケーションと他方の親との直接的コミュニケーション・父母間の直接的コミュニケーションの関連性」を検討することを第一の目的とした。仮説を検討した結果、母子間での父の事柄に関する情報伝達と父子間での直接的コミュニケーションとの間に正の関連が示された。また、モデルの説明率が極めて低い値であり解釈に慎重になる必要はあるが、父子間での母の事柄に関する情報伝達と母子間での直接的コミュニケーションとの間に正の関連が示された。これらの結果は、仮説1を部分的に支持しているといえる。

このような結果は、戸田ら(2002)の結果を支持するものである。したがって、母親と子どもの間での父親の事柄に関する情報伝達は、父親と子どもの間での直接的コミュニケーションに影響を与えていることが示された。実際、家族内では、父・母・子のいずれかの二者関係において関わりが強くなることでサブシステムが形成され、残された家族成員との関係が希薄になる場合がある(例えば、Minuchin,1974)。また、先行研究において、母親の父親に対する非好意的評価と子どもの母親への尊厳との関連(飛田・狩谷,1992)などが示されている。さらには、母子密着の家族構造に関して、母親が父親を否定的評価していると子どもも父親を敬遠するようになり、その結果、母子密着が成り立つというプロセス(坂西,1984)が示唆されている。しかしながら、本研究で得られた、一方の親から他方の親の事柄に関する情報を子どもに伝達することを視野にいたした介入は、母子密着などの家族関係に偏りがある場合にその家族関係を変化させる要因になることが示唆できる。このことから、直接的コミュニケーションだけでなく、間接的コミュニケーションも視野に入れながら家族内の情報伝達のあり方について捉えていくことが重要になるといえる。しかしながら、媒介的なコミュニケーションにおいては仮説1を支持する結果が示されなかった。この理由としては、媒介的な情報伝達においては、家族内の生起頻度が低い割合であることが推察される。そのため、他方の親との直接的コミュニケーションとの間に有意な値が示されるほどの関連が見られなかったのではないかと考えられる。

一方、仮説2の検討に関しては、父親との直接的コミュニケーションの低い状況では、母親との間での間接的コミュニケーションを用いることで家族満足度が高まることが示された。この点は仮説を支持する結果である。この結果から、母親には父子関係を取り持つ役割があることが示唆できる。特に、日本の社会風土は母子関係が近い関係にあるために、子どもにとって、母親が父親に対してどの程度の愛情を抱いているかが分かりやすく、それが子どもの父親に対する評価に影響を与えているということが考えられる。したがって、子どもが抱く父親の存在は、母親からの情報というものが大きく影響しているということが窺える。特に、本研究の知見から母子間での父親の事柄に関する情報伝達は、父親と子どもの間で葛藤関係や物理的に接触頻度が少ない状況、つまり父親と子どもの間で直接的なコミュニケーションが困難な状況において、母親は、父子間の直接的コミュニケーションの頻度の少なさを補うべく、子どもとの間で父親の事柄に関する情報伝達を用いることで、子どもの家族満足度を高める役割を担うことが示唆された。

その一方で、父子間での間接的コミュニケーションにおいてすべて仮説が支持されなかった。



この理由としては、父親の家庭関与が高いほど中学生の精神的健康が良好になるという指摘(平田, 2003)や父親との結びつきを強くイメージしたものが家族に対する満足度が高かったこと(小岩, 2008)など、近年では父子関係の重要性が指摘されつつあるが、そのような父子の直接的な関わりの中で、父親と子どもとの間で母親に関することを直接的に話すという状況では、ダイレクトに家族満足度に影響を与えやすい可能性が推察できる。従って、家族内では母親ほど父親は媒介的な役割を担っていないことが窺える。

以上のことから、母子間・父子間での直接的・間接的コミュニケーションではその質や量および機能が異なる可能性がある。そのため、今後は、より詳細に母子間・父子間での直接的・間接的コミュニケーションの機能の差異に着目した検討が必要になるであろう。

## 【引用文献】

- Grych J.H., Raynor, S.R., & Fosco, G.M. (2004). Family processes that shape the impact of interparental conflict on adolescents. *Development and Psychopathology*, 16, 649-65.
- 飛田操・狩谷佳子(1992)．両親の「仲の良さ」の認知と親子関係 福島大学教育学部論集, 51, 55-63.
- 平石賢二(2000)．青年期後期の親子間コミュニケーションと対人意識、アイデンティティとの関連 家族心理学研究, 14, 41-59.
- 平田裕美(2003)．青年期前期の子どもに対する父親の関わり—分類と特性— 家族心理学研究, 17, 35-54.
- 五十嵐敦(1992)．高校生の親の家族関係と満足度 福島大学教育学部論集, 52, 67-76.
- 小岩健裕(2008)．大学生の親のイメージと家族満足度との関連 家族心理学研究, 22, 65-75.
- 黒川衣代(1998)．食事シーンから見た家族満足度—中学生を対象に—信愛紀要, 38, 1-8.
- Minuchin, S. (1974). *Family and Family Therapy*. Cambridge, MA: Harvard University Press. (山根常男(訳)(1984) 家族と家族療法 誠信書房)
- 尾形和男(2011)．父親の心理学 北大路書房．
- 大島聖美(2011)．中年期父親の肯定的子育て歴の回想分析 家族心理学研究, 25, 135-147.
- 齋藤暢一朗・若島孔文・吉田克彦・高野光弘(2005)．摂食障害の娘をもつ母親との短期・家族療法コンサルテーションの1例 心療内科, 9, 429-433.
- 坂西友秀(1987)．第5章 全体として家族 第1節 夫婦関係と親子関係の連関 長田雅喜(編) 家族関係の社会心理学 福村出版 pp130-142.
- 多川則子・吉田俊和(2006)．日常のコミュニケーションが恋愛関係に及ぼす影響 社会心理学研究, 22, 126-138.
- 高井次郎(2003)．依頼および断りの状況における直接的・間接的対人方略の地域比較 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 49, 181-190.
- Takai, J., & Wiemann, J. (2002). Direct and indirect communication strategies in refusal and requesting: A cross-cultural comparison of effects of situational and relational factors. Paper presented at the Annual Conference of the International Communication Association, Seoul, Korea.
- 戸田弘二・牧野高壮・菅原英治(2002)．青年期後期の家族関係と精神的健康及び精神的・身体的不適応との関連 北海道教育大学実践総合センター紀要, 3, 221-223.
- 若島孔文(2001)．コミュニケーションの臨床心理学 臨床心理言語学への招待 北樹出版．
- 山本倫子・伊藤裕子(2012)．青年期の子どもが認知した夫婦間葛藤と精神的健康との関連 家族心理学研究 26, 83-94.

# Examining the Association of Direct and Indirect Communication in Family with Adolescents.

– Focused on Relations with Family Satisfaction –

Norimasa ITAKURA

(Postdoctoral Researcher, Graduate School of Education, Tohoku University)

The purpose of this study was to unfold the relationship between direct and indirect communication in family with adolescents. Indirect communication is defined as a parent-adolescent conversation about the spouse or that about the third person's information. Additionally, this study aimed to evaluate the effect of the two types of communication (direct and indirect) on family satisfaction. 199 university students (88 males and 111 females) were participated in this study. The result showed a positive correlation between a subscale of the indirect communication: mother and adolescent's conversation on father, and the father-adolescent's direct communication. The result also revealed that family satisfaction was higher in high mother-adolescent conversation on father group than that in the low group when father and adolescent communicate less frequently.

Keywords : Direct communication, Indirect communication, Family satisfaction